

# 世界の問題を身近に—マラウイを通して

山口県宇部市立厚東小学校

担当教科：3年担任

浅田 弘美

◆実践教科：総合的な学習の時間 ◆時間数：22時間 ◆対象学年：小学3年生 ◆対象人数：15名

## カリキュラム

### ◆実践の目的

- ・世界が抱えている課題（きれいな水の不足、学校に行けない子どもたち、食べ物の不足）をマラウイの人々の生活の様子と比較しながら知り、自分たちの日々の生活を振り返る。
- ・一番身近な問題である「学校に行けない子どもたち」について、世界の現実を知り「学べることへの感謝」の気持ちを持つ。
- ・世界の人々のために働いている青年海外協力隊のことを知り「人の役に立つ喜び」について気づき、自分たちにできることはないか考え実践することができる。

### ココがすばらしい！

紙芝居、ペープサートなど視覚に訴える資料を有効に活用し、子供たちにマラウイの現状を分かりやすく伝えた。  
学校という身近なキーワードからマラウイの現状を知り、考える授業を実践。

## 授業の構成

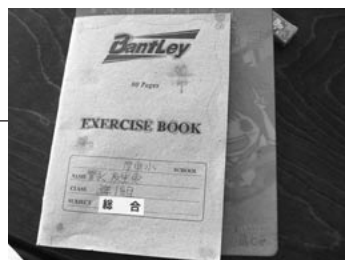
| 時限            | テーマ・ねらい                  | 方法・内容                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 使用教材                                                                     |
|---------------|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 1<br>▼<br>4   | 「アフリカのマラウイ」について知ろう       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界地図でマラウイの位置を確かめる</li> <li>・マラウイの景色、生活、子どもたちの様子を知る</li> <li>・大切なものを比べる（同じもの・違うもの）</li> <li>・大切なものカルタをする</li> <li>・マラウイのリサイクルを知る</li> </ul>                                                                                                       | 世界地図<br>マラウイの写真<br>大切なものの絵カード<br>ペットボトル<br>スーパーの袋で作ったボール                 |
| 5<br>▼<br>7   | 「水の大切さ」について知ろう           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ため水で手を洗い水の大切さを知る</li> <li>・きれいな水の大切さについて知る</li> <li>・アフリカの子どもたちに絵を描く</li> </ul>                                                                                                                                                                  | 写真<br>ユニセフ<br>「いのちの水」冊子<br>水に関する絵、<br>水差し、たらい、<br>色鉛筆、画用紙                |
| 8<br>▼<br>15  | 「学校に行けない世界の子どもたち」について知ろう | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界には学校に行けない子どもたちがたくさんいることを知る</li> <li>・学校に行けない理由、行けないと困ることを考える</li> <li>・開発途上国の意味を調べる</li> <li>・青年海外協力隊の仕事を知る</li> <li>・青年海外協力隊の方から学べること、人の役に立つということの話を聞く</li> <li>・青年海外協力隊の方へ感想を書く</li> <li>・いろいろな援助があることを知る</li> <li>・勉強をしたことをまとめよう</li> </ul> | 紙芝居<br>ネパール語<br>写真<br>国語の辞書<br>パワーポイント<br>ペープサート<br>ポリッジ(粥)<br>バオバブジャム紅茶 |
| 16<br>▼<br>20 | 食卓から世界を見てみよう             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこの国の食べ物か調べる</li> <li>・マラウイの食事と自分たちの食事を比べる</li> <li>・シマを食べ、穀物自給率について考える</li> <li>・世界の食べ物についてまとめる</li> </ul>                                                                                                                                      | シマ                                                                       |
| 21<br>▼<br>22 | 勉強したことをまとめよう             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の問題を振り返ろう</li> <li>・マラウイのことを振り返ろう</li> </ul>                                                                                                                                                                                                   | パワーポイント                                                                  |

### 1 時限目 | アフリカのマラウイってどんな国だろう

マラウイの位置を世界地図で確かめさせ、どのくらい日本から離れているか、どんな気候か、どんな景色か、どんな生活をしているのかなどを写真やクイズを交えながら知らせたり、お土産のマラウイのノートを配ったりしてこれからの学習の動機付けを図った。

#### 児童の反応

「マラウイのノートは薄いけど書きやすいよ」「どのページもはしに赤い線があるよ」「ノートの裏に12の段までの九九が載っているよ」「ノートの中に広告があるよ」「表紙に名前と絵も描いておくよ」



マラウイノート

#### 〈所感〉

ノートを一人一冊ずつ配り、これから勉強することをこのノートに書いていくことを知らせると、子どもたちは大変喜んだ。ノートの表紙に名前他に絵を描き自分だけのノートを作っていた。

一連の授業の中で、分かったことがあると「マラウイノートに書かなくっちゃ」という声を何度も聞き、勉強の意識付けに大変役立った。

### 2・3時限目 | マラウイの子の大切なものって何だろう

マラウイの子どもたちが描いた大切なものの絵が何であるか当てさせながら、自分たちと同じもの、自分たちとは違うものがあることに気付かせ、その理由を考えさせたりした。

また、マラウイの子が描いてくれた絵カードでカルタをして大切なものに共感させた。

#### 児童の反応

「命、食べ物、飲み物、学校、友達、家族は同じように大切だね」「『くわ』は、違うけどはたらくに大切なんだよね」「食べ物を作るのに大切なんだよね」「英語でメモを取りマラウイノートにメモした」



マラウイノートのメモ

#### 〈所感〉

マラウイの子が描いた絵カードに、自分たちが贈った大切なものの絵カードと同じものがあることを喜んだ。違うものについては説明を付け加え、その理由を教えた。メイズ(日本人の米にあたり、とうもろこしの粉である)、鶏(ご馳走で生きたまま買って調理する)、車(歩くのが普通でほとんどの家にはない)などいろいろあったが、なかでも「ホウ＝くわ」の絵に驚いていた。その理由は自分たちで考えることができた。また、「大切なもののカルタ」は子どもたちが喜び、しばらくの間クラスの遊び道具の一つとなった。

### 4 時限目 | マラウイのリサイクルについて知ろう

「ごみ問題ってなあに」の教科書の話聞かせたり、写真を見せたり、作った見本を見せたりして、マラウイの子どもたちがものを工夫して使っていること、ものを大切に、リサイクルをしていることに気付かせた。

(「ごみ問題ってなあに」—5年生の国語の教科書の内容を参考)



針金で作った車



レジ袋で作ったボール



おやついれのペットボトル



作った見本

## 児童の反応

「ボールはスーパーの袋を丸めて作ってあるんだね」「ペットボトルは夏に麦茶を入れるだけだけど物を入れるのにも使えるんだね」「おもちゃの車を針金と木の棒で作ってるよ」

### 〈所感〉

マラウイで隊員をされていた田尻さんに問い合わせた次のことも子どもたちに伝えた。「マラウイの子どもたちはビニール袋をつなぎ合わせたゴムとびも工夫して作り遊んでいるが、まず水汲みなど家の手伝いが優先である」。この勉強で、自分たちの遊び道具とまったく違うけど、物を工夫して使うことの大切さに気が付いたようである。

## 5時限目

## マラウイ式の手洗いをしてみよう 自分たちの水の使い方を振り返ろう

マラウイでの手洗いの写真を見せた。マラウイでは食事を手で食べるので、食前は必ず手洗いをすることを伝え、マラウイ式の手洗いをさせた。そして手洗いで使った水の量から水の大切さに気付かせ、自分たちの生活の中での水の使い方について考えさせた。(風呂の水、洗顔の水、手を洗う時の水、トイレの水など)



園児の手洗い



食事前の手洗い

## 児童の反応

「水道じゃなくてタンクから出る水で手を洗っているよ」「先生もコップの水で手を洗ってるよ」  
用意した2リットル入りのクールボットを見て、15人全員「やってみたいな」「もういいよ(3秒くらいで満足感)」

### 〈所感〉

15人が洗っても2リットル入りの水差しの水が0.5リットルしか減っていないことに驚く。手を洗った残りの水も後で水遣りに使うことを知らせると、「エコしているね」「生きていくために野菜に水をやって育てないといけないものね」という意見が子どもたちからでたのが嬉しかった。タンクの中の水は汲み取ってきたものであり、蛇口やレバーをひねればどんどん水が出てくる日本とは違うこと、マラウイの子どもたちの家では誰かが水を汲みに行かなければならないことも知らせ、自分たちの日頃の水の無駄遣いを振り返らせることができた。

## 6時限目

## 水の色って何色だろう

水は透明だと考えているけど、そう思っていない子どもたちが世界にはたくさんいることを、「いのちの水」の冊子をもとに知らせた。世界にはきれいな水が飲めない国がたくさんあり、子どもたちが病気で死んでいく

こと、また水汲みのお手伝いのために、十分に学ぶことができない子がいることも読み取らせた。そしてきれいな水の大切さを考えさせた。(参考資料：「いのちの水」ユニセフ発行)

## 児童の反応

「きれいな水がいつもある日本はすごいかもしれない」  
「アフリカは5歳になるまでに死んでしまう子が多いね、マラウイも多いよ」

### 〈所感〉

「いのちの水」の冊子の世界地図では色別に「5歳になる前に命を失う子どもの割合—出生1000人あたり」が記載されており、子どもたちはすぐにマラウイをさがし、とても高い(200人以上)の次の高い(100～199人)であることを知り驚いていた。

## 7時限目 自分たちにできることはないかな？

一枚の絵がアフリカの子ども1本の色鉛筆になる取り組みがあることを知らせ、きれいな水のない地域の子どもたちを励まそうという気持ちを高め、心をこめて「きれいな水に変えるアフリカの生活」「水の思い出」というテーマで絵を描かせた。

※Volvicみんなの水お絵かきコンクール参加



### 〈所感〉

アフリカの子どもたちが、色鉛筆を使って絵を描き喜んでいる写真も見せたことで、これから自分達が描く1枚の絵が人を幸せにできることを感じたようだ。日頃は絵を描くことを躊躇する子どもも、「描きたい」という意欲を見せ一生懸命に描いた。小学3年生でも人の役に立てる喜びが強い動機付けになることが分かった。描いた後は子どもたちの気持ちが届くように願いをこめ封筒に入れて送った。また、次の勉強につなげるために、学校で学べない理由のひとつに水汲みのお手伝いがあることも最後に告げた。

## 8時限目 学校に行けない子どもたちがいることを知ろう

「学校に行けない世界の子どもたち」の話を紙芝居にし、世界には学校に行きたくても行けない子どもたちがたくさんいることを知らせた。また本時は「水の大切さ」の勉強につなげて「水汲みのお手伝い」も行けない理由のひとつであることを知らせ、どのくらいの子が行けないかについて4択クイズを行い、その数の多さを教えた。このとき、マラウイの子どもたちの就学状況(小学校5年生で40%)も知らせた。また、次回はなぜ学校に行けないのか、学校に行けないとどんなことが困るのか、もっと詳しく行うことを予告した。

※12時限目に一緒に授業をすることになっている元青年海外協力隊員の田邊さんに授業を見学していただき、子どもたちの様子と、ねらいを伝えた。

#### 4択クイズ「学校に行けない子供はどれくらい？」

- ① 1億3千万人（日本の人口） ② 146万人（山口県の人口）  
③ 17万人（宇部市の人口） ④ 73人（厚東小の子供の数）



### 児童の反応

- 紙芝居の中の子守りや水汲みの手伝いで学校に行けないという9歳の女の子の言葉→「同じ歳なのに大変だなあ」「学校に行きたくても行けない子がいるんだ」「僕たちは学校に行きたくないのに行かされている子どもたちかも」
- 学校に行けない子どもの数、1億3千万人→「日本の人の数と同じってすごく多いんだね」「やっぱり学校に行けるっていいことかも」

### 〈所感〉

紙芝居の中の9歳の女の子が水汲みや子守りで、学校に行きたくても行くことができないことに驚いていた。4択クイズは始めに数だけ見せ「世界で学校に行けない子の数」の予想を立てさせた。この方法は大きな数になれていない3年生の子どもたちの興味をひきつけた。そして、行けない子どもの数が日本の人口と同じということに驚いていた。また、マラウイのほとんどの子が1年生に入学し5年生では、子どもの約半分くらい（40パーセント）しか学校にいかない理由に、やはりお手伝いも含まれていることを伝えた。また、次の時間に、「なぜ学校に行けないのか」、「学校に行けないとどんなことが困るか」を勉強することを知らせる。「今日、勉強したお手伝いや水汲みがあるから行けないんだよ。」という意見が出るが、他にもあることを予告しておく。特に、「教える先生がいなくて学校に行けない」というのは、12時限目に来られるホンジュラスで協力隊員をされていた田邊さんの仕事につながるので気付かせたいところである。

## 9時限目

### なぜ行けないのかな、困ることはないかな

なぜ学校に行けないのか、その理由と学校に行けないとどんなことが困るかを考え、学校で学べる自分たちの生活を振り返らせた。

どのくらいの子が学校に行けないか（前時のおさらい）

- ① 1億3千万人を分かりやすくするために「5人1組になり、じゃんけんをしましょう、負けた人は出てきてください」、出てきた3人に「このクラスだと3人は学校に行けません」というゲームをさせ、世界の子の5人に1人が行けないことを実感させた。
- ② どうして行けないか考えよう  
お手伝い（水汲みや子守り）以外の理由を紙芝居で示す（戦争、近くに学校がない、先生がいらない）
- ③ 行けないと困ることを考えよう  
ネパール語で（水、薬、毒）と書いてある3つのペットボトルを用意し「薬を買いたいんだけどどれを買うか」3択で選ばせ、学校に行けないと困ることを考えさせた。
- ④ 学校に行っているマラウイの子どもたち

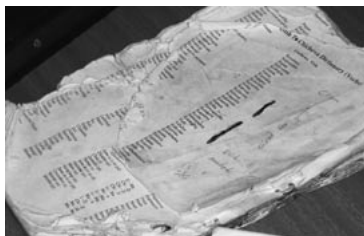


左から毒、薬、水

まず、自分の教室にどんなものがあるか、絵に描かせた。（机、椅子、黒板、窓、電気、テレビなど）その後、学校で勉強しているマラウイの子どもたちの様子を写真で見せた。（椅子だけ、ひざの上のノート、使い古された辞書）

「さあ、みんなと比べてどうでしょう」と問いかけ、さらに「どんな様子が勉強していますか」と問いかけた。





英語の辞書



マラウイの授業風景

- ⑤毎日学校で勉強できる自分たちのことを振り返ろう  
紙芝居の登場人物になり気持ちを吹き出しに書かせ黒板に貼らせていった。



日本の授業風景

## 児童の反応

「日本は学校に行くのが当たり前だけど学校に行けない子もいるんだ」「学校に行けない子もいるとわかって、その子の分も勉強したい」「私は学校に来てとてもうれしい」「字をたくさん覚えてきれいに書きたい」

### 〈所感〉

薬を買うとき「文字が読めないと、どうして困るのかな」という問いに、「どれを買っていいかわからない。間違って毒水を飲むかもしれない。毒水を飲んだら死んでしまう。」などの理由を子どもたちなりに考えることができた。このとき、行けないと困ることの他の理由についても触れておいた。(例「計算ができない」—安いものを高く買ってしまうかもしれない。「文字がかけない」—手紙が書けない。)また、マラウイの子どもたちが、物が十分でない中でも一生懸命に勉強している様子を知ること、毎日、学校で勉強できる自分たちのことを振り返り、世界には「学校に行きたくても行って勉強することができない子」、「学校に物がなくても一生懸命勉強している子」がいることに気づき、どういう気持ちで学びたいかを多くの子が吹き出しに書いていた。

## 10時限目 開発途上国って何だろう

12時限目に来ていただく青年海外協力隊の方の話を聞いたり、世界の実情を知ったりするために「開発途上国」という言葉は大切である。しかし、子どもの辞書には「開発途上国」という言葉は載っていない。そこで、「開発」と「途上」で分けて調べさせた。開発とは、「新しい道路を作ったり、電気や水道を引いたり、新しいものを作ったりすること」途上とは「途中」だということを、分かりやすく丁寧に教え、どこにそのような国が多いか位置を確かめさせ、アフリカのマラウイもそのひとつであることを確認させた。

## 児童の反応

「開発途上国ってアフリカにたくさんあるんだね」「先生の言ったマラウイも開発途上国なんだね」

### 〈所感〉

いつもは、辞書を引くことを躊躇する子どもたちも、前時に大切に使われているマラウイの辞書の写真を見せたことが動機付けになったのか、進んで調べていた。

## 11時限目

# 青年海外協力隊ってどんなことを するのだろう

青年海外協力隊の方から話を聞くにあたり、どこで、どんな仕事をするのか辞書で調べさせたり、教えたりした。また「将来の夢があれば誰でも隊員になれるよ」という田邊さんから伝え聞いたことを、子どもたちに知らせ興味関心をもたせた。このときマラウイの子どもたちの将来の夢と自分たちの将来の夢を比較させながら行った。

厚東小3年生—①スポーツ選手 ②漫画家 ③ケーキヤさん（パティシエ）  
マラウイの子—①先生 ②運転手 ③医者・看護師

## 児童の反応

「マラウイの子になりたいものが違うね。」「どうして運転手さんが2番目なんだろう。」「僕は、ゲームデザイナーって書いたんだけどなれるかな（コンピューター関係の仕事ができることを伝えたと喜ぶ）」

## 〈所感〉

青年海外協力隊の田邊さんの将来の夢が「学校の先生」だったことに合わせて、子どもたちが身近に青年協力隊を捉えてくれるように、夢があれば一人ひとり世界で役に立てることを説明した。またこのときマラウイの子の将来の夢も知らせ、自分たちの夢と比べさせた。運転手が2番目にあることについて驚いていたが、マラウイでは車が各家庭にはなく運転手はとても大切な仕事で、子どもたちは「運転手になって隣の国に荷物を運びたい」「病気の人を病院に運びたい」など夢をもっていることを伝えた。

## 12時限目

# 学べることに感謝し、 人の役に立つ喜びに関心をもとう

ホンジュラスで青年海外協力隊として活動された田邊さんから、「学校に行くことができない子がいたこと（ソフィアの話）」、「上手に教えられる先生の数がないこと（協力隊員としての仕事）」を実際に聞き、「学校で学べること」や「人の役にたつこと」の尊さについて考えさせた。このとき、青年海外協力隊の仕事についてマラウイで活躍されている隊員の紹介も取り入れた。※12時限目の流れについては参考資料参照



教員養成学校の隊員と学生



幼稚園で教えている隊員



田邊さんとのT・Tの授業

## 児童の反応

「学校で勉強できるって」—幸せだなあ。いいことだなあ。うれしいなあ。  
「人の役に立って」—大切なんだ。気持ちいいな。うれしいなあ。素敵だなあ。すごいなあ。



ペープサートでお話しされる田邊さん  
※ペープサート:人物の絵などを描いた紙に棒をつけたものを動かして演じる紙人形劇

## 〈所感〉

子どもたちは、世界には「学びたくても学校で学ぶことができない子がたくさんいること」を前時までの学習で知っていたが、今回開発途上国で青年海外協力隊員として活動されていた田邊さんから「学校に行けない子」の現実が聞けたことは、子どもたちに大きな感動を与え、「学校に行けなかったソフィアが学校に行けるようになったことへの感謝」について多くの子どもたちが共感していた。

さらに、学べる状況にあっても、マラウイもホンジュラスも環境が十分でないことを知ることで、自分たちの学校生活を振り返ることができた。また、自分に将来なりたいたいものがあれば、開発途上国で青年海外協力隊になれるということを前時までに子どもたちは勉強してきた。そして、実際に「将来学校の先生になりたい」と思っていた田邊さんが、「どんな活動を開発途上国でしたか、その活動をしての喜びがどうであったか」を語ってくださったおかげで、青年海外協力隊員の仕事は「人の役に立つ喜びがある」ということが子どもたちの心に響き、人の役に立ち「ありがとう」と言ってもらえることの嬉しさに共感できたようである。

## 13時限目 青年海外協力隊の方に手紙を書こう

「学校に行けない子が行けるようになった喜び」、「夢を持って青年海外協力隊員になり、開発途上国の人たちの役に立てた喜び」について教えてくださった田邊さんへ勉強の感想と感謝の気持ちをこめてお手紙を書いた。

### 児童の反応

児童の手紙より

「青年海外協力隊のことがよく分かりました」「学校の先生を教えるお仕事は凄いなと思いました」

「学校に行けなかったソフィアの話聞いて悲しかったです」「本当のことだと分かりました」

「ぼくも青年海外協力隊になってみたいです」

## 〈所感〉

手紙の中で多くの子が、実際に学校に行くことができなかったホンジュラスのソフィアのお話に感動したこと、また自分も青年海外協力隊員になりたいという気持ちを書き表していた。

一人ひとりの手紙文から、協力隊員として活躍された田邊さんに現実をお話してもらったことは、子どもたちの心に響いたことが伝わってきた。

## 14時限目 自分たちにできることはないかな

マラウイの学校で食べられていた「ポリッジ(とうもろこしの粉、大豆の粉、砂糖で作られたおかゆのような食べ物)」を食べ、日本も戦後ユニセフから給食の援助をしてもらっていたことを知らせた。また、開発途上国の子どもたちのために色々な援助の方法があることや、自分たちにもできることがあることに気付かせた。



ポリッジを配膳している様子

### 児童の反応

「ポリッジ甘くて美味しいよ」「大豆は畑のたんぱく質だから栄養がつくんだね」「お兄ちゃんたちの学校でエコキャップを集めているんだって!うちにキャップがたくさんあるからもって来ていい?400個で10円、800個で20円そして一人分のポリオのワクチンが買えるんだ!集めてみたいな」

## 〈所感〉

勉強した次の日に一人の子がペットボトルのキャップを持ってきたことをきっかけに、子どもたちが僕も私もと持ってくるようになり、また子どもの中に集める係も自然にできた。最後には800個ずつ、袋に入れみんなで袋を抱きかかえながら、「3人の子どもの命を助けられるんだね」ということを実感していた。(2500個位集めた)





## 15時限目

### 「学校に行けない世界の子どもたち」の勉強をして 心に残ったことをまとめ、発表しよう

勉強したことを振り返りながら、心に残ったことをまとめみんなに伝えた。

#### 児童の反応

児童の作文より

世界で学校に行きたくても行けない子どもが1億3千万人もいることがよく分かりました。学校に行けたとしても先生がいなくて勉強道具が足りないということにびっくりしました。だから勉強を一生懸命に頑張らないといけないんだなと思いました。教える先生が足りないとか、いないときも青年海外協力隊が役に立つんだなと思いました。私たちでも役に立つ援助があることも知りました。



#### 〈所感〉

最後の発表会では、学校に行けない子どもたちが多いのにびっくりしたこと、夢があれば青年海外協力隊員になれること、だから自分も将来青年海外協力隊員になりたいこと、ホンジュラスの子の話に感動したことを伝えてくれた。

## 16時限目

### 自分たちが食べているものは どこで取れるのだろう

JICAの資料「世界の食料」の中のバイキングの食材の絵をもとにそれぞれの食べ物の取れるところがどこか考え、日本で取れたものが少ないことに気付かせた。それは、日本が外国から色々な種類の食料を買っているからであり、もし輸入が止まれば、どうなるかを考えさせた。

#### ◆バイキングの食材(絵で提示)

オレンジジュース—アメリカ、えび—ベトナム、魚—ノルウェー、ポテト—アメリカ、野菜—中国、ハンバーグの肉—アメリカ、バナナ—フィリピン、ケーキの小麦粉—アメリカ、ケーキのイチゴ—日本

#### ◆輸入が止まった時の1日の食材(絵で提示)

朝—ごはん一杯、ふかし芋(じゃがいも)、漬物

昼—焼き芋(さつまいも)、ふかし芋(じゃがいも)、りんご1/4

夜—ごはん一杯、焼き芋(さつまいも)、焼き魚 ※卵やお肉は週1回だけ

#### 児童の反応

■バイキングの食材について—「そういえばスーパーに行ったら〇〇産って書いてあるのを見たよ」「そういえば甘栗の袋の裏に中国って書いてあったよ」

■輸入が止まったときに手に入る食材について—「お肉を毎日食べられないんだ」「がまんできないなあ」

#### 〈所感〉

それぞれの食材が取れた国の位置を地図で確認させた。特にノルウェーは日本から遠く離れた北の国であることを知り驚いていた。この勉強をしたおかげで、社会の教科書のスーパーマーケットで働く人たちの単元の「しなものはどこから」という勉強にも興味を持って取り組み、お店にも外国のものがたくさん置いてあることを確認することができた。

## 17時限目

# 食べたものを思い出し マラウイの食事と比べてみよう

子どもたちが昼と夜に食べたものを2日間書き出させ、マラウイの食事と比べ、自分たちの食事内容の違い、主食の種類について考えさせた。

### ◆マラウイ

昼・夜—シマ、おかず(豆、トマトや野菜を煮込んだもの)お肉はめったに食べられない。

※次の日も大体同じメニュー

シマがどのような食べ物であるかは写真で見せ、何でできているかはメイズの粉(とうもろこしの粉)を実際に見せ、明日は食べることを予告した。

### ◆日本

昼—肉うどん、おでん(外食) 夜—ごはん、すき焼き、サラダ、りんご

昼—パン、牛乳、シチュー、サラダ、ゼリー(給食) 夜—瓦そば、おにぎり、肉じゃが

※毎日メニューが違う

## 児童の反応

「マラウイでは昼と晩に同じようなものを食べている」「肉はめったに食べない」

「自分たちはお肉をほぼ毎日食べているのになぜ?」「おかずのメニューが同じということにびっくり」

### 〈所感〉

子どもたちは自分たちの食生活を振り返り、好き嫌いや食べ物を無駄にしている自分たちに気が付くことができた。また、次の時間にマラウイの主食のシマを食べ、穀物自給率について知らせることになっているので、主食の種類について考えさせた。マラウイはシマだけであるのに対して、日本はうどん、ごはん、パン、そばとバラエティ豊かであることに触れておいた。また世界では、食べ物がないで苦しんでいる人が8億5千万人、日本の人口の約7倍いること、世界では食べ物不足で5秒に1人、5歳以下の子どもたちが亡くなっていることもクイズ形式で知らせると驚いていた。

## 18・19時限目

# シマを作って食べてみよう 穀物自給率について知ろう

マラウイの主食シマのとうもろこしの粉は、ほとんどマラウイの国で取れたものである。その一方、日本の私たちはご飯の米以外はほとんど外国のものであることを知らせ、外国が食べ物を売ってくれなくなったらどちらの国が困るかを考えさせた。穀物自給については意味を辞書で調べさせた。(穀物一人が主食として食べる作物、自給—自分に必要なものを自分でととのえること)

このときマラウイの主食であるシマを実際に手で食べさせる体験をさせた。

※穀物自給率—日本27% マラウイ96%(割合は難しいので絵に描いて教えた)

## 児童の反応

「もちもちしているよ」

「おかずをシマでくるんで食べるといいよ」

「美味しいよ」



シマと煮野菜



手で試食

### 〈所感〉

マラウイのことを勉強し始めてから、シマを食べることは子どもたちの願いであった。鍋の中でメイズの粉が固まっていくのをみて子どもたちはわくわくしていた。シマの付け合せはトマトとほうれん草を煮たものを

添えて雰囲気を出した。食べた感想はそれぞれであったが、これをほとんど毎日食べることを伝えた。

また、シマを作るともろこしの粉はほとんどマラウイの国で取れること、一方日本の私たちは、お米以外の主食はほとんど輸入に頼っており、外国が売ってくれなくなったら困ることにも触れ、自分の国で食べ物を作ることの大切さを考えさせた。

## 20時限目 世界の食べ物についてまとめよう

食べ物の勉強をして、分かったこと、思ったことをまとめよう。

### 児童の反応

「世界の7人に1人が食べられないと聞いてびっくり」「食べ物に感謝しながら食べないといけないな」  
「残さないで食べないといけないな」「好き嫌いをせずなんでも食べたいな」  
「食べられない子どもたちにあげたい」

### 〈所感〉

下線部のような感想から、戦後日本が給食で援助を受けていたことをあらためて伝え、今も食料不足のために教育を満足に受けられない子どもに給食を配ったり、上手く食べ物(作物)を作る方法を教えたりしている取り組みについて知らせた。(このとき、マラウイで農業のやり方を教えている青年海外協力隊員のことも話した。)

## 21時限目 世界について勉強したことをまとめよう

勉強してきたことで心に残ったことを書き出し、どんな勉強をしたか思い出させる。

### 児童の反応

児童の作文

どろのまじった水も飲んでいることにすごくびっくりしました。そういう水はおなかをこわすことがよく分かりました。青年海外協力隊は最初は何か分からなかったけど開発途上国の手伝いをしていることがよく分かりました。マラウイではくわが大切なことにとてもびっくりしました。それは働くためにとても大切なんだなと思いました。

### 〈所感〉

心に残ったことや言葉をノートに書き出させていくと、マラウイのこと(エコ、ボール、ポリッジ、マラウイの食事メニュー、シマ)、学校に行けない世界の子、青年海外協力隊、大切な水、大切なものカルタ、くわが大切、開発途上国、援助、エコキャップ、給食の援助、シマを手で食べること、穀物自給率、将来の夢、大切な食べ物、などをあげていた。やはり時間をかけて丁寧に取り組んだものはたくさんの子がノートに書き出していた。

## 22時限目 マラウイのことを振り返ろう

書き出させたことの中によく出てきたマラウイのことは最後に三択クイズにして思い出させた。そして、マラウイについて「分かったこと」、「勉強してよかったこと」、「もっと知りたいこと」、「マラウイの子へ一言」というワークシートの中に感想を書かせ、発表しあうことで今回の一連の勉強の締めくくりとした。

## 児童の反応

マラウイの子へ

「水汲みや他にも色々仕事をしていることがびっくりしました。これからも頑張って、学校に行ってください」

「色々なことがわかりました、有難うございました」「学校の先生になってね。笑顔でいてね」

「いろいろなことが分かったよありがとう。」

## 〈所感〉

「分かったこと」については、「貧しい国である、お肉をあまり食べられない、歌が好き人が多い、シマやボリッジが美味しかった、エコをしていて凄いと思う」など、ネガティブな捉え方とポジティブな捉え方をしていた子どもがいた。マラウイに将来行ってみたいという子もあり、アフリカの小さな国であるマラウイのことが子どもたちの心に残ってくれたようで嬉しかった。

## 全体を通しての成果と感想

3年生の子どもたちの目が世界に向くように、1学期から「いろいろな国のことを知ろう」というテーマで、世界には色々な国があり、自分たちの文化や生活と同じところ、違うところがあることを学んできた。

2学期は担任がマラウイに行ったことで、世界の問題をマラウイを通して学んだ。マラウイでは水を大切に使うことから、水をテーマに、世界にはきれいな水が十分になくて、死んでいく子がいることなど勉強し、「絵を描いて色鉛筆を送る」という取り組みにも参加した。そのようなことを通して、世界には様々な状況があるということが、子どもたちの学びの中に入ってきた。

特に重点をおいた「学校に行けない世界の子どもたち」については「学校で学べる感謝」と「人の役に立つ喜び」の二点を成果としてあげる。前者の感想の中には、学校に行けない子が世界にはたくさんいることをはじめて知った驚き、学校に行けることは普通のことと思っていたが普通ではない子どもたちもいること、学校に行ける私たちは勉強を一生懸命頑張らないといけないこと、学校に行けることはとても幸せなことでもうやったら行けない子どもたちを助けられるのかなと思ったこと、学用品や教科書があることへの感謝、さらに学校に行ける自分を産んでくれたお母さんと働いてお金を稼いでくれるお父さんがいるから学校に行けることへの感謝にまで気付いた子もいる。学校で学べることへの感謝が3年生の子どもたちの心の中に残ったのは確実である。

後者については、「青年海外協力隊員の活動は開発途上国の人々の学びの役に立つ」ということが、どの子の心にも響いたようである。自分でもなりたいたいものの夢があれば青年海外協力隊員として将来役に立てる。(例えば、夢が野球選手なら野球を教えられるなど)だから、「将来、青年海外協力隊になりたい」また、「将来、人を助ける仕事がしたい」と感想に書いた子がたくさんいた。人の役に立つということは行動に現れやすい。今まで給食当番の配膳が苦手やろうとしなかった子も「お役に立ってる」と言いながら、嬉々として当番をやるようになった。また乱れたトイレのスリッパを進んで整頓する子も増えた。海外に行かなくても身近なことで役に立つことができることに子どもたちは気付き、動き始めていることは嬉しいことである。

世界の様々な問題を身近に捉えながら、感謝と喜びなくして、自分と人との関係は成り立たないということを、いかに子どもたちに学ばせるか、今後も考え続けなければならない課題である。

## 参考資料

### 【書籍】

- ・「集まれ！地球の教室」  
独立行政法人 国際協力機構(JICA)(2009)
- ・「いのちの水」財団法人日本ユニセフ協会(2008)
- ・「学校に行けない世界の子どもたち」  
独立行政法人 国際協力機構(JICA)(2009)
- ・「学校に行きたい」独立行政法人 国際協力機構(JICA)(2009)
- ・「世界につながる何が見つかる」  
国際協力NGOセンター(2009)
- ・「世界の食料」独立行政法人 国際協力機構(JICA)(2009)

### 【インターネット】

- ・「ぼくら地球調査隊」  
<http://www.jica.go.jp/kids/>
- ・「JICA世界の笑顔のために」  
<http://www.jica.go.jp/kids/partner/smile/index.html>
- ・「エコキャップ集め」  
<http://ecocap007.com/>
- ・「キッズユニセフ」  
[www.unicef.or.jp](http://www.unicef.or.jp)
- ・「1Lfor10Lプログラム」  
[www.volvic.co.jp/1Lfor10L/about/result2008.htm](http://www.volvic.co.jp/1Lfor10L/about/result2008.htm)

# 資料 1

## ＜世界の問題を身近に—マラウイを通して12時限目・第3学年総合的な学習指導案＞

### 1. ねらい

青年海外協力隊の方から学校に行けない子の現実を聞き、学べることに感謝し、人の役に立つ喜びに関心を持つことができる

### 2. 準備

ソフィアの話のペープサート、ホンジュラスの学校の様子のパワーポイント、マラウイで活動している隊員・学校の生徒・教員養成学校の学生の写真

### 3. 展開

| 学習活動                                                                          | GTの活動                                                                            | 指導上の留意点                                                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 田邊先生の青年海外協力隊員としての活動を知る                                                     | ○青年海外協力隊員としてホンジュラスでしていた仕事についての話                                                  | ○田邊先生の仕事を身近に捉えさせるために「先生がいないから学校で学べない(2/6)」の学習を思い出させる。<br>○マラウイでも同じ活動をしていた隊員がいたことを知らせる。                                                            |
| 2. 学校に行けなかった子の話を聞く<br>・学校で学ぶことができなくなったSofia<br>・13歳になって再び小学2年生として復学したSofiaの喜び | ○Sofiaの話                                                                         | ○Sofiaの状況を分かりやすくするために「手伝いで学校に行くことができない子」のことを思い出させる。<br>○子どもたちに分かりやすいようにペープサートでSofiaの様子や状況を伝える。<br>○マラウイの例も出して13歳と8歳の子と一緒に勉強することは特別なことではないことを知らせる。 |
| 3. 学校に行っている子の様子を聞く<br>・ホンジュラスの教室<br>・マラウイの教室                                  | ○勉強しているホンジュラスの子どもの様子の話<br>・たくさんの生徒<br>・少ない学用品<br>・一生懸命学ぶ子                        | ○ホンジュラスの学校の様子をより身近に感じさせるために参加型手法のロールプレイを取り入れる。<br>○開発途上国の子どもたちの学ぶことに対する喜びをわからせるために、マラウイの子どもたちの教室の様子も思い出させる。                                       |
| 4. 青年海外協力隊員としての仕事の喜びを聞く                                                       | 学校で勉強できることに感謝しよう<br>○「上手に教えることができる先生が増えたこと」、「子どもたちが学べるようになったこと」で協力隊員をして良かったという感想 | ○協力隊員として、「人の役に立つ」仕事でできた喜びを伝えてもらう。<br>○マラウイの教員養成学校の生徒の言葉を伝える。                                                                                      |
| 5. 感想をまとめる                                                                    | 人の役に立つ喜びを知ろう                                                                     | ○本時の勉強をして分かったこと、思ったことをまとめよう。                                                                                                                      |

### 1. 評価

- ① 青年海外協力隊の人の話から、学校に行けない子の現実を知ることができたか。
- ② Sofiaの話を実際に聞き、「学校で学べること」について感謝の気持ちを持つことができたか。
- ③ 「人の役に立つこと」の喜びについて関心をもつことができたか。